

『未来記』全文

第一章 八百と八十八の後、荒ぶる魂の船、西方への野心の果て、覇者の国へ至る
(1492年、コロンブス、新大陸発見)

第二章 千と十六の後、新たな神の地を求めし者たち、覇者の国に錨いかりを下ろす
(1620年、メイフラワー号で清教徒がアメリカに渡る)

第三章 千と百七十二の後、互いに遍あまねくく栄光あり、覇者の国、西方より立つ
(1776年、アメリカ独立宣言)

第四章 千と二百四十九の後、覇者の国より来たりし大熊、日出づる国の海を黒く染めたる
(1853年、ペリー提督の黒船来航)

第五章 千と三百十の後、世の全てが二分され、略奪と憎悪の炎が上がる。そして、それは二度起こる
(1914年、二度の世界大戦)

第六章 千と三百四十一の後、覇者の国、天より黒き雨を降らせる。日出づる国で、それは二度起こる
(1945年、アメリカ、広島と長崎に原爆投下)

第七章 千と三百八十七の後、世の全てが二分されたことの終わり。覇者の国、赤き落日の光を見る
(1991年、冷戦の終結とソ連の崩壊)

第八章 千と三百九十七の後、それは瞬く間に分かれ、雷となり、二体の龍を倒す。その雷は百七十と五、そして十と一
(2001年、アメリカ同時多発テロ)

第九章 千と四百十一の後、覇者の国の星が消える
(2015年、アメリカ大統領暗殺)

第十章 幻の大地、栄華が再び現る。そののち、六度目の終わり来たる。
(未来記最終章 終末の予言)

原文

(監修・原文制作 山口哲史)

(前文)

今年歲次甲子吾親製十七憲法定扶桑國規而以未然故不得陳自余國事雖如此其禍將及此邦因不堪秘匿別誌十章識文伝世興山禪祐後良久諦信詣和州夢殿強披見吾現身是不畏仏罰輩也地震世滅乎加以動此識亦触事流霸歟何敢殖泥梨之因此固慮吾邦所遺須為此日稜用之後代篤仁宜承吾意濟此八洲

一曰自今以後經八百有八十八歲荒蛮船遊魂西方竟懷野心至霸領踰波濤來有救世願人住聖島如此珍奇地經一旬之後知非亜印為霸種蛮藉斯宝処殖富

二曰亦同經一千有一十六之歲後覓新出神宝地輩解散皐花大舶纜紅髮靡風濤為按針嘗艱苦入霸津終投碇錨訖初踏鷄蛋磐而後經廻約定地定四箇屯宿

三曰亦同經一千有一百七十二歲草子困所稱檄案談兩天成三部書上說革世理中論農王喬所犯廿八箇弊策下謳列邦独起道於爰互遍有榮光自西方霸立

四曰亦同經一千有二百四十九歲欲永嘉之砌有夷不能存安政于時大熊自霸渡瀛至此日域泛東海玄黑三葵躬已開四門交与兩毛李尚華更加二湊和霸了

五曰亦同經一千有三百一十歲後八紘勃分歧成二派熾盛火焰立于普天頻頻掠憎覆於一字此火禍重起或虎哮又或兔跳示其徵吾日皇与霸國時並時对競

六曰亦同經一千有三百六十一歲霸猴王杜自天來遣男孩腴漢降黑雨其雨于日出扶桑國兩度孩往芸漢涉肥共化葦而灼而後旭革義八紘分木与金相睥睨

七曰亦同經一千有三百八十七歲自甲寅分治於兩雄世終為所霸統木蘇分為十有五霸者之國東方見落日赫赤光自乙酉至于是交于戈木金並俱知偃息

八曰亦同經一千有三百九十七歲其瞬息之間分為雷電倒雙龍此雷或連百七十与五或美十及一猶有二条吾念不詳唯知數美連耳自茲霸挑回世新入混沌

九曰亦同經一千有四百一十一歲雙羊逾墻季統世霸國星銷畢譬彼王竊被弑也得漏密咎歟即曠恚箭劈空貫其身變成蛇竭命地塗三毒血城市俄墮為古砦

十曰亦於同前乙未歲沼氣忽生自瀛中如亞蒂坤輿復湧出在扶桑南洋榮華再現縱使一切有情擅富貴咸悉虛假難保易滅氛氣暴發迎六終示滅尽衆生之相

(後文)

凡此十章識文者以濟度心磨髻珠觀想海內化外運祚而所悟矣是寔可恐懼畏怖凶徵也方今掬智海水摺麗墨執慈悲筆將結度衆緣所生願仍謹錄此十識以託有緣伏惟若破障吾願不信此識則十王必加呵嘖若不破辱敬遵奉福祥弥倍益尽未來際誇榮耀不可懈怠可恪勤辰日夜廐戶豐聰達禪定之境具淨写如件

書き下し (監修・制作 山口哲史)

今年歳は甲子に次る(1)。吾親ら十七の憲法を製りて、扶桑の国(2)の規を定む。而れども未だ然らざるが故を以て、自余の国の事を陳ぶることを得ず。此の如しと雖も、其の禍將に此の扶桑国に及ばんとす。因りて秘匿するに堪えず、別に十章の讖文(3)を誌して世に伝う。興山祐に禪りて後(4)、良久しくして諦信(5)和州夢殿に詣り、強いて吾が現身(6)を披見す。是れ仏罰を畏れざるの輩なり。地震い世滅ぶるか。加以動もすれば此の讖も亦事に触れて覇に流るるか。何ぞ敢えて泥梨(7)の因を殖やさん。此れ固より吾が邦を慮りて遺す所なれば、須らく此の日稜(8)の為に之を用うべし。後代の篤仁宜しく吾が意を承けて此の八洲(9)を濟うべし。

一に曰く。今より以後八百有八十八歳を経て、荒ぶる蛮船魂を西方に遊ばせ、竟に野心を懷きて霸領に至る。波濤を踰えて世を救わんとするの願い有ちたる人の住みし聖島(10)に来たる。此の如き珍しく奇しき地、一句を経たるの後、亜印に非ずして霸種たるを知る(11)。蛮斯の宝地を藉りて富を殖やす。

二に曰く。亦同じく一千有一十六の歳を経たる後、新たに出づる神宝の地を覓めし輩、皐花を散らしし大舶(12)の纜を解く。紅髮(13)風濤に靡きて按針と為り、艱苦を嘗めて霸の津に入り、終に碇錨を投げ訖んぬ。初め鷄蛋の磐(14)を踏みて、而る後に約定の地(15)を経廻りて(16)、四箇の屯宿(17)を定む。

三に曰く。亦同じく一千有一百七十二歳を経て、子圀(18)檄と称する所の案を草し、談ずること两天にして三部の書を成す。上は世を革むるの理を説き、中は農王喬(19)犯す所の廿八箇の弊策を論い、下は邦を列ね独り起つるの道を謳う。爰に於いて互いに遍く栄光有り、西方より霸立つ。

四に曰く。亦同じく一千有二百四十九歳を経て、嘉を承らえんと欲するの砌夷有り、存らうること能わずして、政を安んず(20)。時に大熊霸より瀛を渡り此の日域に至りて、東海に泛ぶこと玄黒たり。三葵(21)躬ら已に四門を開き、兩毛の季尚華と交わるも(22)、更に二湊を加え霸と和し了んぬ(23)。

五に曰く。亦同じく一千有三百一十歳を経たる後、八紘勃かに岐を分かちて二派を成す。熾盛たる火焰普天に立ち、頻頻たる掠憎一字を覆う。此の火禍重ねて起こり、或は虎哮え又或は兔跳ねて其の徴を示す(24)。吾が日皇霸国と時に並び時に対して競う(25)。

六に曰く。亦同じく一千有三百六十一歳を経て、霸の猴王(26)杜(27)天より来りて、男孩(28)腴漢(29)を遣わして黒き雨を降らしむ。其れ日出づる扶桑国に雨ること兩度。孩は芸(30)に往き、漢は肥(31)に涉りて、共に葦(32)と化して灼く。而る後に旭(33)義を革め、八紘木と金とに分かれて(34)相睥睨す。

七に曰く。亦同じく一千有三百八十七歳を経て、甲寅(35)より兩雄に分治せらるる世終に霸の統ぶる所と為る。木蘇(36)分かれて十有五と為る。霸者の国東方に落日の赫赤たる光を見る。乙酉(37)より是れに至る干戈交えざる木金(38)、並びに俱に偃息するを知る。

八に曰く。亦同じく一千有三百九十七歳を経て、其れ瞬息の間、雷電に分かれて双龍を倒す。此の雷或は百七十と五とを連ね(39)、或は十及び一を美しうす(40)。猶お二条有り、吾念ずれども詳らかならず、唯数の美しく連ねたるを知るのみ(41)。茲より霸回に挑み(42)、世新たに混沌に入る。

九に曰く。亦同じく一千有四百一十一歳を経て、双羊墻を逾ゆるの季(43)、世を統ぶる霸国の星銷え畢んぬ。彼の王窈かに弑せらるるを譬うるなり。密を漏らすの咎を得たるか(44)。即ち曠恚(45)の箭空を劈きて其の身を貫き蛇(46)に変成す。命竭く

るの地三毒の血に塗れ、城市俄かに墮ちて古砦と為る(47)。

十に曰く。亦前(48)に同じ乙未の歳に於いて、沼氣(49)忽ち瀛中より生じて、亜蒂(50)の如き坤輿(51)復た湧き出でて扶桑の南洋に在り、栄華再び現る。縦使一切の有情(52)富貴を擅にするも、咸悉く虚飯(53)にして保ち難く滅し易し。氛氣(54)暴発して六終を迎え、衆生(55)を滅尽するの相を示す。

凡そ此の十章の讖文は、濟度の心を以て髻珠(56)を磨き、海内(57)化外(58)の運祚を觀想して悟る所なり。是れ寔に恐懼畏怖すべき凶徴なり。方に今智海の水を掬いて麗墨(59)を摺り、慈悲の筆を執りて、將に衆縁所生(60)を度するの願いを結ばんとす。仍りて此の十讖を録して以て有縁(61)に託す。伏して惟うに若し吾が願いを破障し此の讖を信じざれば、則ち十五(62)必ず呵嘖(63)を加えん。若し破辱せず敬みて遵奉せば、福祥弥益を倍し、尽未來際(64)栄耀を誇らん。懈怠すべからず恪勤すべし。辰日の夜(65)、厩戸豊聡(66)禪定の境に達り、具に淨写すること件の如し(67)。

注釈

前文

- (1) 推古天皇十二年(六〇四)。
- (2) 日本の異称。
- (3) 予言の書。未来記。讖記、讖書ともいう。
- (4) 興山は徳川慶喜の号、祐は祐宮(さちのみや)。明治天皇の幼名(御称号とも)。「興山祐に禪る」で明治維新を指す。
- (5) アーネスト・フェノロサの法号。明治十八年(一八八五)、法明院(天台宗寺門派)住職の桜井敬徳から受戒。
- (6) 法隆寺の救衆觀音像(ドラマの架空設定)。聖徳太子等身像と伝える。
- (7) 地獄を意味する仏教用語。サンスクリット語 *hitaya* の音写。

- (8) 主人公二人の名前から一文字ずつ取った日本を意味する造語。加々美稜真と轟日見子が事件に関与することを暗に予言。
(9) 日本の異称。

第一章

- (10) サンサルバドル島。サンサルバドルは、「聖なる救い主」という意味。
(11) 一四九二年、コロンブスのアメリカ新大陸発見から十年後の一五〇一年〜一五〇二年、アメリゴ・ヴェスプッチが南アメリカの大西洋岸を探検し、新大陸はアジアとは別の大陸であると主張したことを指す。

第二章

- (12) メイフラワー号。皐月（五月）の花から。
(13) イギリス人。オランダ人と同様、紅毛人と呼ばれていた。
(14) プリマス・ロック。メイフラワー号からピルグリム・ファーザーズが上陸したとき、最初に踏んだとされる岩。プリマス・ロックは現在、鶏の品種でもあるので、鶏卵と岩の形状の類似から「鶏の蛋（たまご）の磐」。
(15) ピューリタン・カルヴァン派のピルグリム・ファーザーズにとつてアメリカは、イギリス国内の貧困および親カトリック政策の採用といった危機から逃れ、理想に基づく社会を建設する「約束の地」と想像されていた。
(16) ピルグリム・ファーザーズは、日本語で「巡礼の始祖（父祖）」。「巡」||「廻」。
(17) ニューイングランドに建設された四つの植民地。マサチューセッツ、ロードアイランド、コネティカット、ニューハンプシャー。

第三章

- (18) 福沢諭吉の号。著書『西洋事情』で、アメリカ独立宣言を「千七百七十六年第七月四日亜米利加十三州独立ノ檄文」として紹介し、全文を和訳。
(19) 「農夫王」・「農夫ジョージ」とあだ名されたイギリス国王ジョージ三世。ジョージ三世は、現代中国語で「喬治三世」。

第四章

- (20) 嘉永六年（一八五三）にペリーが来航して、その翌年に安政に改元したことを指す。
(21) 徳川氏の家紋は、三つ葉葵。江戸幕府を指す。
(22) 江戸幕府が「四つの口」（長崎・対馬・松前・薩摩）でオランダ（紅毛人）・中国（中華）、朝鮮（李氏）、アイヌ（蝦夷||毛人）、琉球（尚氏）と交流していたことを指す。ロナルド・トビ『鎖国』という外交』（全集日本の歴史第九巻、小学館、二〇〇八年）
(23) 下田・箱館（||二湊）を開港して、日米和親条約を締結。

第五章

- (24) 第一次世界大戦は一九一四年の甲寅の年(寅年)、第二次世界大戦は一九三九年の己卯の年(卯年)に始まったことを予言。
(25) 日本は、第一次世界大戦では、アメリカと同じ連合国陣営(≡時並)、第二次世界大戦では、アメリカと敵対する枢軸国陣営(≡時対)に参戦したことを示す。

第六章

- (26) 鎌倉時代の聖徳太子未来記に空から飛来するのは、「獼猴狗」(猿と犬)とある(『明月記』安貞元年(一二二七)四月十二日条所収「太子石御文」)。
(27) 原爆投下を決断したアメリカ大統領トルーマン。トルーマンは、現代中国語で「杜魯門」。
(28) リトルボーイ。原子爆弾ガンバレル型ウラニウム活性実弾L11のコードネーム。
(29) ファットマン。原子爆弾インプロージョン方式ブルトニウム活性実弾F31のコードネーム。
(30) 広島。
(31) 長崎。
(32) キノコ。原爆のキノコ雲を指す。
(33) 日本。
(34) 五行説では、東は木徳、西は金徳。東西冷戦を隠喩。ちなみに、木徳は金徳に滅ぼされる。木が金属製のノコギリで伐採されるイメージ。

第七章

- (35) 第一次世界大戦が始まった一九一四年。
(36) ソ連は現代中国語で「蘇聯」。木徳の蘇聯、東側陣営のソ連という意味。
(37) 第二次世界大戦が終わった一九四五年。
(38) 東西冷戦。干戈(≡武器)を交えない木徳と金徳の戦い。

第八章

- (39) ユナイテッド航空一七五便。ユナイテッド航空は、現代中国語で「聯合航空」。「聯」≡「連」。
(40) アメリカン航空一一便。アメリカン航空は、現代中国語で「美国航空」。
(41) 他の二つの雷(≡航空機)がアメリカン航空とユナイテッド航空であることを予言。
(42) 九・一一同時多発テロの後に、アメリカがアフガニスタン紛争・イラク戦争を起こすことを予言。アフガニスタン・イラクは、ともにイスラム教(回教)国。

第九章

- (43) 一九九一年以降、二〇一五年までに未年が二度来たこと(二〇〇三年・辛未の年、二〇一五年・乙未の年)を指す。
- (44) 第三話における文殊博士の発言「ジョン・F・ケネディは、ある重要な国家秘密を暴露しようとしたがゆえにアメリカ政府に消された可能性がある」より援用。
- (45) 怒り・憎しみ・怨みなどの憎悪の感情を意味する仏教用語。人の心を害する最も根本的な三種類の煩惱である三毒の一つ。他の二つは、財物などをむさぼり求める貪欲(とんよく)、仏教の教えを知らず、道理や物事をありのままに捉えることができない愚痴(ぐち)。
- (46) 三毒は、貪瞋痴(とんじんち)ともいう。
- (47) 蛇は瞋恚を象徴する動物。
- (48) アメリカ大統領がシカゴで暗殺されること(ドラマの架空設定)を予言。シカゴの漢字表記は「市俄古」。文中にこの三文字を配置。

第十章

- (48) 第九章のこと。
- (49) メタンの和名。「沼気忽生自瀛中」でメタンハイドレートが海底で産出されたことを指す。
- (50) アトランティス大陸。アトランティスは、現代中国語で「亜特蘭蒂斯」。「亜」のみではアジアと混同し、紛らわしいこと、十七世紀の学者アタナシウス・キルヒャーによる地図では、アトランティス大陸が大西洋の中央に果物の蒂(へた)のような形で描かれているようにみえることから「亜蒂」とした。
- (51) 大地。大地が万物を載せるのを輿に例えたもの。
- (52) 人間や動物など心・感情・意識を持つもの。衆生。
- (53) ①あらゆる事象が空虚で実体性を欠いていること、②心や行為が真実でないこと。ここでは、①の意味。聖徳太子の有名な言葉「世間虚仮、唯仏是真」(『上宮聖徳法王帝説』)より。
- (54) 本来は、①大気。雲や霞。②悪い気。災いの気配という意味。ここでは、ビッグファイブおよび六度目の大量絶滅をもたらす二酸化炭素を指す言葉として使用。
- (55) 心を持つ全ての存在。ここでは、人々という意味。

後文

- (56) 髻中明珠(けいちゅうみょうしゅ)とも。釈迦が髻(もとどり)の中に隠した宝珠。『法華経』が最も優れた経典であることを示す比喻に「髻中明珠」がある。平安時代初期の四天王寺では、「太子髻中明珠」という聖遺物が創作され、五重塔に納められていた。聖徳太子の救済者としてのイメージを主張。山口哲史「聖霊御髪・太子髻中明珠と平安初期の四天王寺」(『古代史の研究』第一七号、関西大学古代史研究会、二〇一一年)を参照。
- (57) 四海の内。国内。ここでは、日本。

(58) 王化(天子や君主の徳)の及ばない所。国家の統治の及ばない所。ここでは、海外。

(59) 推古天皇十八年(六一〇)、高句麗僧曇徴が倭国(日本)に彩色・紙墨の製法を伝えたこととされることから、高句麗の墨ということでも「麗墨」。この未来記の「作成年代」である推古天皇十二年よりも後のことになり、矛盾するが、それが未来記であることの証でもある。実際の聖徳太子未来記でも、それが作成された時代の知識で文章が綴られるので、聖徳太子が生きた時代にはなかった思想などを読み取ることができる。「慈悲の筆」と同じような意味合いで、それと対になるように「麗しい墨」と一般名詞として(逃げの)解釈をすることも可能。

(60) 衆生。

(61) 仏の道に関係のあること。仏に救われる縁のあること。

(62) 冥界で死者の罪業を裁くといわれる十人の王。この未来記を十章構成にしたことから、「十」で数字を対応させた。初七日から四十九日(七七日)までの各七日、百箇日、一周忌、三回忌に各王のいる庁(役所)に行つて、その裁きを受ける。唐末の十世紀頃、道教の影響を受けて成立した偽経『十王経』(蔵川著)に説かれる。日本にも平安時代中期以降に伝来。なお、十王は、①秦広王(しんこうおう)、②初江王(しょこうおう)、③宋帝王(そうたいおう)、④伍官王(ごかんおう)、⑤閻羅王(えんらおう)閻魔、⑥變成王(へんじょうおう)、⑦泰山王(たいざんおう)、⑧平等王(びやうどうおう)、⑨都市王(としおう)、⑩五道転輪王(ごどうてんりんおう)。「呵責」と同じ意味。厳しく責めること。

(63) 未来永劫。

(64) 『日本書紀』推古天皇十二年夏四月丙寅朔戊辰(三日)条に、聖徳太子が十七条憲法を制定した記事がある。辰の日に十七条憲法を發布し、その日の夜にこの未来記を書いたという設定。

(65) 聖徳太子の別名。

(66) 古文書などの締めくくりの部分で、「如件」が結びの言葉としてよく使われる。「以上の通り」、「上記の通り」などの意味。